

先端ものづくり国家としてのわが国の繁栄と 世界的な課題解決に貢献するナノテクノロジー拠点の形成

概要 Overview

我が国を代表する数多くの研究所が筑波研究学園都市に集積してはや30年を超えるに至っています。そこで創出される多様な知の中でもナノテクノロジーに関しては、世界的な研究資源が蓄積されています。TIA-nano(ティア-ナノ)は、産総研、NIMS、筑波大学、KEKが中核となり日本経済団体連合会(経団連)とも連携して世界的に魅力あるナノテクノロジー研究拠点を造り上げようとする取り組みです。



沿革 History of TIA-nano

- 1963** 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
- 1970** 筑波研究学園都市建設法成立
- 1972** NIMSの前身となる研究所が筑波研究学園都市に移転
- 1973** 筑波大学が設置され、つくば市にて開学
- 1979** 産総研の前身となる研究所が筑波研究学園都市に移転
- 2001** 独立行政法人としての産総研、NIMSが設立
- 2009** つくばイノベーションアリーナ(TIA-nano)発足・共同宣言
- 2010** 「新成長戦略～「元気な日本」復活のシナリオ～」閣議決定、TIA-nanoを中心とした「世界的な産学官集中連携拠点の形成」
- 2011** 第1期中期計画の策定
TIA大学院連携コンソーシアムの設立
- 2012** KEKがTIA-nanoの中核機関として参画



産総研つくば西スーパークリーンルーム(SCR)



2012年3月28日に行われたKEK参画の記者発表。左から、鈴木 厚人(KEK機構長)、潮田 資勝(NIMS理事長)、岸 輝雄(TIA-nano運営最高会議議長)、野間口 有(産総研理事長)、山田 信博(筑波大学長)

5つの理念 Five Principles

世界的な価値の創造

共通基盤インフラでの実用実証により世界的な新事業を創出することを目指します

Under One Roof

産学官それぞれの研究者・研究体が、組織の壁を越えて結集・融合する「共創場("Under One Roof")」を提供します

自立・好循環

共通基盤インフラは、国際的に優位性のある利用価値を国内外に提供します

Win-Win連携網

国内外にネットワークを広げ連携力を強化して、価値を創造します

次世代人材育成

教育(次世代人材育成)機能を産学官連携により充実させます

コア研究領域・コアインフラ

TIA-nano core research domains and core infrastructures

6つのコア研究領域

ナノエレクトロニクス
Nanoelectronics

パワーエレクトロニクス
Power Electronics

N-MEMS

ナノグリーン
Nano-Green

カーボンナノチューブ
Carbon Nanotubes

ナノ材料安全評価
Nano-Material Safety

6 Core Research Domains

3つのコアインフラ

ナノデバイス実証・評価ファウンドリー
Nanodevice Research Foundry

ナノテク共用施設
Nanotech Open User Facilities

ナノテク大学院連携
Networking School of Nanotechnology

3 Core Infrastructures